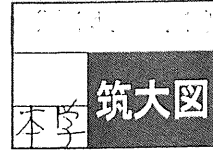


ISSN 1348-1363



筑波大学留学生センター

日本語教育論集

第29号

2014

ま え が き

ここ数年において、政治や経済の動きをみると、日本の国内外を問わず変革が著しい傾向にあります。日本語および日本事情の学習とその教育的配慮は、このような世の中の変遷とも大きく関わっています。

最近までは、日本国内の外国人就労者とその家族たちへの日本語および日本事情の啓蒙あるいは教育について需要が高くありました。一方、製造業等を主体とした日本企業の海外への流出により外国人の日本国内での就労者数は頭打ちとなり、逆に海外への日本企業の製造拠点の移動等により、海外で事業を実施する日本企業での就労に向けた現地での日本理解が重要になってきています。

日本へ来る留学生については、これまでの日本語で専門課題を学習する正規生に加えて、留学の様態が多様化しています。日本語で学習し短期で単位の取得等を目指す特別聴講学生や、主に英語で教育を受けるG30学生など、日本語に対する需要も大きく多様化しています。また、留学生の出身国籍も多様化しており、異なる母語をもつ日本語学習者への柔軟な教育が必要となり、かつ教育を支援するための研究課題も増えてきています。

特に短期間の留学においては、学習の効率化が重要となり、補足自習教材等の充実が必要です。また、英語で教育を受ける学生や研究を実施する研究者たちにも、日本での生活を支援できるような日本事情の教材が必要です。このような異なる要求に応じた自習用e-learning教材等の開発は、大学等の高等教育研究機関への学生・研究者の受入れのために必須であり、大学等の国際化をさらに支援できるものと思料します。平成22年度に文部科学省より認定を受けた筑波大学留学生センターの全国共同利用日本語・日本事情遠隔教育拠点は、平成26年度が最終年度となりますが、今後も国内の教育連携ネットワークを強化し、日本語・日本事情の教材、教育法の発信、遠隔教育による海外との交流および国際ネットワーク構築につなげてゆくことが、引き続き本学の責務であろうと考えます。

2014年2月

留学生センター長
渡 邊 和 男

目 次

研究論文

1. 中級レベルの日本語学習者のコミュニケーション能力の現状とニーズ
—日本・中国・韓国の学習者を対象とした調査と実践を通して—
…………… 許 明子・金 東圭・姚 艶玲 …………… 1
2. 笑いの追求
—留学生向けの落語会における笑いを含む相互行為について—
…………… ブッシュネル ケード …………… 19
3. 大学生のレポートにおける原因・理由を表す文型について
—作文教育への応用を目指して— …………… 湯本 かほり・木戸 光子 …………… 43
4. 日本語学習辞書開発に伴う表記情報の掲載基準に関する一考察
…………… 高原 真理 …………… 59
5. 漢字に関するCan-do Statements調査から見えてくるもの
—漢字の知識と運用力についての学習者意識—
…………… 加納 千恵子 …………… 71

報 告

6. 習熟度の異なる学習者に対する授業の可能性と課題
—初級日本文化クラスの実践を通して—
…………… 鈴木 秀明・ヨフコバ 四位エレオノラ …………… 93
7. 初級後期レベルにおける音読活動実践報告
—学習者自身の発音に対する意識に注目して—
…………… 小浦方 理恵・長戸 三成子 …………… 105
8. 初級日本語学習者を対象としたカルタ活動とその試み
…………… 三谷 絵里 …………… 119
9. 学びの冒険
—G30日本語平成25年度春学期Cモジュールの取り組みについて—
…………… ブッシュネル ケード・鄭 聖美・高原 真理・
三木 杏子・山本 千波 …………… 133
10. 作文活動を中心とした四技能の統合
—初級後期クラスにおける試み—
…………… 鄭 聖美・沖田 弓子・木戸 光子・
田中 孝始・ブッシュネル ケード …………… 155

11. 2011年度3学期及び2012年度初級漢字中期クラスの授業報告
 —自律的な漢字学習を促すためのクラス運営—
 …………… 石田 麻実 …………… 173
12. 読むJ600教材の最適化を目指して
 —アンケート調査結果の報告— …………… 高橋 純子・鄭 聖美 …………… 189
13. 日本語・日本事情遠隔教育拠点報告2013
 …………… 今井 新悟・李 在鎬・甲斐 晶子・吉田 麻子・
 信岡 麻理・古川 雅子・堀 聖司・朴 眞煥 …………… 207
14. 多文化メンタルウェルネス心理教育プログラムの開発と実践
 —大学キャンパスのグローバル化に向けて—
 …………… 島田 直子・鈴木 華子 …………… 221
15. 情意領域を主眼とした第二言語習得における教授法について
 …………… 山本 千波 …………… 233

寄 稿

16. 留学生センター日本語コースにおける授業評価
 —2013年度春学期の授業評価アンケート報告— …………… 加納 千恵子 …………… 245

日本語教育研修会（2013.1～2013.12）講演要旨

………… 283

2月1日(金) ルーマニアにおける日本語教育の課題 ―学習者のニーズを中心として―
日本語学習者辞典における外来語の位置づけ

ルーマニア、ブカレスト大学准教授

Anca Focseneanu

2月8日(金) 留学生のための日本語の発音指導について

筑波大学人文社会系准教授 松崎 寛

2月22日(金) 講義の「談話型」の表現と理解

早稲田大学国際学術院教授 佐久間 まゆみ

7月24日(水) 留学生の母語表記を日本語教育に生かしてみよう

リュブリャーナ大学文学部教授 アンドレイ・ベケシュ

あ と が き

筑波大学留学生センターは、平成25年度に2つの大きな日本語プログラムの改編を行った。1つは、筑波大学が3学期制から2学期・6モジュール制へと移行したのに伴い、各学期10週間のコースから、春学期と秋学期、各15週間のコースへと改編されたことである。もう1つは、留学生センターの日本語科目が全学の科目履修管理システムTWINSに登録されるようになったことに伴い、協定校からの学群短期留学生のための総合日本語科目(単位有り)と、従来通りの日本語補講科目(単位なし)を分けたことである。

この2つの改編に対応するため、留学生センターの日本語担当教員は、新しいシラバス・カリキュラム作り、教材の開発、旧コースから新コースへのレベル対応のルール作り、TWINSを利用した新しい科目登録システムを学内および留学生たちに周知させることなどに全力を尽くしてきた。センター始まって以来の大規模な改編であり、それらにかなりの精力を使わざるを得なかったためか、本センター論集29号への投稿は、前号と比べて多かったとは言えない。

しかしながら、本号には新たな研究への取り組みの論文も寄せられ、また、プログラム改編前の旧カリキュラム下での教育の総括、新カリキュラムの下での授業報告、日本語・日本事情遠隔教育拠点の報告や多文化メンタルウェルネス心理教育プログラムの報告など、多岐にわたる様々な投稿があった。また、本号からは留学生センター日本語等教育部門の教員全員で編集委員会を構成することとなった。本号に掲載されている寄稿「留学生センター日本語コースにおける授業評価—2013年度春学期の授業評価アンケート報告—」からも分かるように、新カリキュラムの日本語コース・クラスの授業は受講生たちから一定の満足度を持って受け入れられたようである。改編が順調に進んだのは、センター長をはじめ、センターの他部門の先生方、留学生交流課、および非常勤の日本語教員の方々の協力と献身的な支援があったからこそであり、心から感謝申し上げたい。

一方、大学全体の国際化・グローバル化という流れの中で、来年度は、留学生センターの改組という新たな課題が控えている。留学生センターの教員、留学生交流課の職員が心を合わせ、新たな課題と取り組んでいかねばならない。筑波大学における日本語教のさらなる充実、改善のために、引き続きご協力とご支援をお願いしたい。

2014年2月

留学生センター日本語等教育部門長
加 納 千恵子

「日本語教育論集」の編集発行について

(昭和63.9.29改訂)

(平成 2.2.20改訂)

(平成18.1.24改訂)

(平成26.1.27改訂)

1. 目的

日本語教育およびその関連領域に関する教育研究上の成果を編集発行する。

2. 編集委員会等

「日本語教育論集」の編集発行に関する事項を審議するための編集委員会を置き、編集委員会は編集委員で組織する。

3. 編集委員

留学生センター日本語等教育担当部門の教員によって構成する。

4. 編集委員の任期

編集委員の任期は、1年とするが、再任を妨げない。

5. 投稿資格

原則として、本学の専任・非常勤教員とする。

共著の場合は、上記の教員が1名含まれていればよい。

また、共同研究者、研究協力者など、留学生センター長が適当と認める者。

6. 投稿論文の分野

日本語教育およびその関連領域に関するもの。

7. 投稿論文の採否

編集委員あるいは編集委員の委嘱する専門家の査読の結果により、編集委員会が採否を決定する。

8. 使用言語および書式

使用言語は日本語または英語とするが、編集委員会で認める限りどの言語でもよい。

原稿は編集委員会の定める書式に従い、長さは原則として20ページを越えないものとする。

9. 発行回数

原則として、年1回とする。

毎年、9月初旬に投稿申し込み、10月初旬に投稿締切、査読を経て12月初旬に最終原稿締切、翌年2月末に発行予定とする。

10. その他

本論集は、筑波大学電子図書館に登録されている。

執 筆 者

- 今 井 新 悟 筑波大学人文社会系 教 授 (留学生センター勤務)
加 納 千恵子 筑波大学人文社会系 教 授 (留学生センター勤務)
木 戸 光 子 筑波大学人文社会系 准教授 (留学生センター勤務)
ブッシュネル ケード 筑波大学人文社会系 准教授 (留学生センター勤務)
許 明 子 筑波大学人文社会系 准教授 (留学生センター勤務)
李 在 鎬 筑波大学人文社会系 准教授 (留学生センター勤務)
鈴 木 華 子 筑波大学人文社会系 助 教 (留学生センター勤務)
島 田 直 子 筑波大学人間系 助 教 (保健管理センター勤務)
石 田 麻 実 筑波大学留学生センター講師 (非常勤)
沖 田 弓 子 筑波大学留学生センター講師 (非常勤)
小浦方 理 恵 筑波大学留学生センター講師 (非常勤)
鈴 木 秀 明 筑波大学留学生センター講師 (非常勤)
高 橋 純 子 筑波大学留学生センター講師 (非常勤)
高 原 真 理 筑波大学留学生センター講師 (非常勤)
田 中 孝 始 筑波大学留学生センター講師 (非常勤)
鄭 聖 美 筑波大学留学生センター講師 (非常勤)
長 戸 三成子 筑波大学留学生センター講師 (非常勤)
三 木 杏 子 筑波大学留学生センター講師 (非常勤)
三 谷 絵 里 筑波大学留学生センター講師 (非常勤)
山 本 千 波 筑波大学留学生センター講師 (非常勤)
ヨフコバ 四位エレオノラ 筑波大学留学生センター講師 (非常勤)
甲 斐 晶 子 筑波大学留学生センター日本語・日本事情遠隔教育拠点研究員
信 岡 麻 理 筑波大学留学生センター日本語・日本事情遠隔教育拠点研究員
朴 眞 煥 筑波大学留学生センター日本語・日本事情遠隔教育拠点研究員
古 川 雅 子 筑波大学留学生センター日本語・日本事情遠隔教育拠点研究員
堀 聖 司 筑波大学留学生センター日本語・日本事情遠隔教育拠点研究員
吉 田 麻 子 筑波大学留学生センター日本語・日本事情遠隔教育拠点研究員
湯 本 かほり 筑波大学大学院人文社会科学研究科 (大学院生)
金 東 奎 韓国外国語大学校日本語大学 教授
姚 艷 玲 大連外国語大学日本語学院 教授

編集委員

加納	千恵子	教授	(人文社会系・留学生センター)
今井	新悟	教授	(人文社会系・留学生センター)
酒井	たか子	教授	(人文社会系・留学生センター)
小野	正樹	准教授	(人文社会系・留学生センター)
木戸	光子	准教授	(人文社会系・留学生センター)
フッシュネル	ケード	准教授	(人文社会系・留学生センター)
許	明子	准教授	(人文社会系・留学生センター)
李	在鎬	准教授	(人文社会系・留学生センター)
関崎	博紀	助教	(人文社会系・留学生センター)

筑波大学留学生センター日本語教育論集 第29号

平成26年 2月26日

発行者 筑波大学留学生センター長

渡 邊 和 男

発行所 筑波大学留学生センター

〒 305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1

電話 029-853-6062

印刷所 筑波印刷情報サービスセンター協同組合

〒 300-4111 茨城県土浦市大畑 565-2

電話 029-862-5027

Journal of Japanese Language Teaching
(NIHONGO KYOIKU RONSHU)
Volume 29
Contents

Research Articles

1. Current Conditions and Needs of Communicative Abilities of Intermediate Japanese Learners : Japanese learners in Japan, China and Korea
..... HEO Myeongja, KIM Dongkyu, YAO Yanling
2. In the Pursuit of Laughter : laughter-in-interaction at a *rakugo* performance for foreign students
..... BUSHNELL Cade
3. A Study of Sentence Patterns Used by University Students Expressing Cause and Reason : application in the field of Japanese language writing class
..... YUMOTO Kahori, KIDO Mitsuko
4. A Consideration of Establishing Japanese Writing Standards for the Development of a Japanese Study Dictionary
..... TAKAHARA Mari
5. A Study on Can-do Statements of Kanji : a survey of learners' self-awareness concerning kanji knowledge and working knowledge of kanji
..... KANO Chieko

Practical Articles

6. Potentialities and Problems of Courses for Learners with Differing Degrees of Mastery : a report on a Japanese culture class for the elementary level
..... SUZUKI Hideaki, YOYKOVA SHII Eleonora
7. A Report on Reading Aloud Activities for an Advanced Beginner's Class
..... KOURAKATA Rie, NAGATO Minako
8. An Activity Involving *Karuta* in a Beginning Level Class for Japanese Language Learners
..... MITANI Eri
9. Adventures in Learning : G30 Japanese in the C module of spring semester, 2013
..... BUSHNELL Cade, JUNG Sungmi, TAKAHARA Mari
MIKI Kyoko, YAMAMOTO Chinami
10. Integration of Four Skills with Writing-Centered Activities : trial in advanced beginners' Japanese class
..... JUNG Sungmi, OKITA Yumiko, KIDO Mitsuko,
TANAKA Takashi, BUSHNELL Cade
11. Report on-the 2011 and 2012 Kanji Class (K400-level) : management of a kanji class for encouraging learner-centered study
..... ISHIDA Mami
12. A Report on an Intermediate Japanese Reading Class : focused on the learners' needs
..... TAKAHASHI Junko, JUNG Sungmi